

<今日の説教のポイント ルカによる福音書5章17-26節>

①主イエス・キリストは、わたしどもの信仰を直視される。17-19節。

この聖書の箇所には、いろいろな人物が登場します。聖書の御言葉を聴くわたしどもに、わたしどもがどの人物と同じ立ち位置にいるか、問いかけて来ます。中風の人や仲間の人々は、熱心さのゆえに、非常識な行動を取ります。しかし、主イエスが直視されるのは、いつでもそれぞれの人の信仰であることを覚えましょう。わたしどもの信仰が問われるのです。あなたは、自分の信仰をどのように捕えていますか。

②主イエスは、交わり(教会)の中にある信仰をご覧になる。20-21節

確かに主イエスは一人ひとりの信仰をご覧になります。しかし、ここでは「その人たちの信仰を見て」(20節)とあるように、その人たち(信仰共同体である教会)の信仰を直視されたのです。これは、教会の交わりであり、祈りの交わりの直視です。「熱心の罪」という言葉があります。信仰的に熱心であるゆえに？他の人を裁いてしまうのです。また執り成しの祈りの共同体であることが重要です。わたしに対する主の執り成しに促されて、他の人のために祈るのです。「他の人のための執り成しとは、その人が自分で占めるべき場所を取っておいてあげることだ」と言われます。執り成しをどう理解すべきでしょうか。

③罪の赦しと癒しとの関係はどうか。22-24節

中風の人に「あなたの罪は赦された」と断言されます。この物語の中心は、この「罪の赦し」です。「赦されるはずがない罪人であるものが赦される」とは、主の十字架の贖いによる神の恵み以外のなにものでもありません。赦しは交わりの回復です。ですから、罪の赦しは、それに応えて「神の御心に従って生きること」です。主のなされた癒しには「罪の赦し」が内在しています。そこに主イエスとの結びつきがあるからです。

④中風の人、皆の人が神を讚美した。驚くべきことを見た。25-26節

わたしどもは讚美と感謝の礼拝と言います。感謝はするけれども、讚美をしていないのではないかと思われることがしばしばあります。讚美は神中心で、感謝はともすると自分中心になるきらいがあります。主イエスによってパラドックスが起こる。「赦される筈のない者が赦され、立ち上がる筈のない者が立ち上がる」のです。信仰による人生の逆転！